会報 松門

No. 18
平成 6. 2. 12

・松陰敬仰の気運醸成
・松陰精神の継承普及
・松陰教学の研究振興

○編集発行　財団法人松風会
〒753　山口市大手町２－18
山口県教育会館内 TEL 0839(22)1218

第一回 松陰研修塾の修了を祝して

財団法人松風会
理事長　松　永　祥　甫

平成三年度を第一年次とする三年間に亘る松陰研修塾の第一回修了証書授与式を案内致しましたところ御来賓、講師先生方の御臨席を賜りました。特に講師先生方には三カ年間熱心な御指導を賜り将に研修塾の企てに画龍点睛を賜りました。併せて深甚なる敬意と感謝を捧げます。

修了証書をお受けになりました皆様に対し衷心より御祝い申し上げます。

「孟子」の尽心章句の中で「君子に三楽あり、而して天下に王たるは与り存せず。父母俱に存し、兄弟故無きは、一の楽なり。仰いで天に愧じず、俯して人に怍じざるは、二の楽なり。天下の英才を得てこれを教育するは三の楽なり。」とあります。孟子は人間を望ましいものに育て上げる教育を人として至幸至福の一つに位置付けております。

さて松風会は松陰先生を崇敬し、松陰精神の普及振興を図り、これを現代に生かすことを目的として先生を顕彰、研究及び研修する事業を展開しておりまして、創立されてより丁度二十年になります。尤も松陰先生に関しましては山口県教育会が夙に松陰精神の顕揚に努めて、実に貴重な松陰全集出版事業を初め、各種の研修、研究事業を展開されており、本会は、緊密な連係を採りつつ現在に至っております。

申すまでもなく松陰先生の生涯は悉く今日の複雑な社会に対応してみても精神活動の珠玉であり活模範であります。学んで時に習うことは楽しいことであり極めて有意義であると信じます。私は予てより大学教育学部に於いて松陰教学講座が開設できないものかと期待している一人であります。一面又なかなかそうもいかない面も在ることかとも思います。彼を思い是を思い松風会で松陰先生の全身全霊に触れ、先生の真骨頂を学び、現在に対応する活模範としてこれを生かす事業を策定致しました。それがこの松陰研修塾であります。

始め定員を三十名として呼びかけを致しましたところ、直ちに呼応された新進気鋭の士六十余名の参加を頂き、三年間に亘り毎年三回、一回の日程が三日間のこともありましたが概ね二日間、本日御臨席の講師先生方の御講義御指導の下に研修会或いは研究会を開催致しました。何分にも極めて御多忙な現職の方々であり、果して完全研修可能かと危惧致しましたところ、本日御出席の四十四名の方に終了証書をお渡しすることができました。悦びに堪えません。茲に重ねて衷心より敬意と祝意を表する次第であります。

三年間の研修、研究内容について付言致しますと、その主題は「吉田松陰の甦る道を求めて―松陰像の追究」であり、内容は講師の講義講話、研究グループ相談協議、研究発表、研究視察などで何れも終始極めて熱心で時には龍虎相撃つの真剣さも感ぜられました。松陰教学の実動を期し得たものと自負致しておる次第であります。

果して、提出致されました報告書に目を転じますと松陰の国際感覚と時代の認識、松下村塾の教育、杉家の家風、松陰の人間観、処世観、松陰の教学精神、吉田松陰の家族観、現代社会はなぜ松陰先生を必要とするのか、松陰教学精神に学ぶこれからの教育への課題、その他意義深い課題を研究テーマとして、その研究の経過と今後の予定を極めて明確に記述されております。

願わくは修得されましたこの成果を基礎に一層の研鑽を積まれ、本山口県教育振興への燦然たる金字塔を樹立されることを只管祈念してやみません。些か述べて式辞と致します。

「松陰研修塾」開塾記念

平成３年６月29日　於山泉荘